

『キリストの復活』 ～大きな石を取るの神である～

ヨハネ 20：1～18

春になると咲く桜、他の花が上を向いて咲くのにに対して、桜の花は下を向き、私たち人を喜ばせて散っていきます。これはイエス様の姿と似ています。(ヨハネ20：1～) このイエス様の復活の記事はルカや、マタイなどの福音書にもかかれていて、それぞれ言いたいことはちょっとずつ違いますが一貫しているのは、墓の前に大きな石があり、それを誰が取り除いてくれるのだろうと行ってみると、墓の中にイエス様がいなかったということです。弟子やマリヤたちは、様々な奇跡を経験してきましたが、師匠であるイエス様が死んだ後は、「神の子イエス」と言っていた弟子たちが、「人の子イエス」としてしか思えなくなってしまっていました。イエス様が死んでしまい、その復活が、彼らが思っていたような方法ではなく、しかも3日もたったからです。しかしイエス様はこのことをラザロの例を通して伝えていました。だからイエス様に人を生き返らせる力があることは知っていましたが、本人が死んでしまったのでだめだと思っていたのです。結局、私たちの信仰はこのようなもので、1部は信じられても1部は信じられない、このような弱さがあるのです。あなたは100%信じることができるでしょうか。「イエス様は死んで復活した」このことは信じられるかもしれないが、人間的にどうしても不可能な時、祈ることをやめて落ち込み、あきらめてしまうことが多いのです。マリヤはイエス様が復活すると知っていましたが、墓に行ったとき、園の管理人だと思ってイエス様と話していました。(ヨハネ20：15)「あなたの祈りは聞かれるよ」私たちはそう聞いていて祈るのに、まさか聞かれるとは思っていないのです。だからいざ聞かれるとびっくりし「奇跡だ」と言うのです。信じて祈ったのなら奇跡ではないはずです。信じて祈って聞かれる、それは当たり前のことですがその当たり前のことが私たちは信じられないのです。そしてこれが聖書でいう不信仰なのです。「あなたが、あの方を運んだのであれば、どこに置いたのか教えてください。そうすれば私が引き取ります。」(20：15) 墓石が取り除かれ、中をみてイエス様が消えているのを見ても、まだマリヤたちはイエス様の復活を信じていませんでした。あなたが本当に信じているのか、そのことを年に一回確認するのがイースターです。あなたは本当にイエス・キリストのことを信じていますか。信じようという気持ち、でも不安で疑っている、これが私たちの姿に似ています。失望、落胆は私たちにとって一番大事な神様を信じる気持ちを奪ってしまいます。本当は毎日イースターであるべきです。「だれかこの石を・・・」こういいながらもここに神の「か」の字もないのです。あなたの問題(落石)を取り除いてくれるのは神様です。あなたは神様に祈っていますか。教会は共に助かったことを喜ぶところであり、神様に求めずに教会の人たちに求めるのは違います。それでは聖霊のいない弟子たちと一緒にです。でも今は、聖霊様がいて信じて確信できる時です。だから信じないといけません。①キリストを基とする。あなたの基礎に神様がいてイエス・キリストの土台があるでしょうか。私たちの問題で一番解決できないのは死です。それを解決した方を私たちは信じているのですから、もう悩む必要はないのです。自分の問題に振り回されるのはやめましょう。よみに帰ったイエス様の復活を確認できれば、今年一年のあなたのキリストと共に歩む人生は変わります。本当に死を恐れない人生であれば今ある問題はあなたにとっても神様にとっても小さいものです。しかしそれに目を向けているからイエス様が復活して目の前に立っていることに気付かないのです。近代文化を切り開く橋となった新渡戸稲造は、西洋の人たちのために「武士道」を書きました。彼はクリスチャンでしたが18歳のとき、神を信じるとはどういうことかわからなくなっていました。私たちはわからなくなると祈ることをやめてしまいますが、彼はわからなくなったときに、祈禱室に閉じこもって祈りました。そしてベルギーに渡ったときに、日本には宗教がないのにどうやって道徳心を教えるのかと言われ、日本人がどのように生きてきたのかを考えた時に日本の「武士道」に「宗教」につながる部分があると知り書いたのです。今は、この生きる道(守るべきもの)がなくなってしまうために、人々が墮落してしまっています。道は教えにあり、そしてそれは命がけの愛に基づいています。世の中にあるすべての教えには道があり、その根源には聖書があるのです。一人の人がその人の働きを全うすることが救いにつながります。だからもう一度キリストを基にして歩む必要があります。道(キリストの愛)を忘れてはいけません。クリスチャンはただ信仰の道を歩くだけでなく、あなたの道を確認すべきです。あなたの立っているところがわかっているからこそあなたの前に立っている人がわかるのです。②キリストを死者に見ない。「イエス・キリストは、きのうもきょうも、いつまでも、同じです。」(ヘブル13:8) イエス様は、あなたが喜んでいる時も、悩んでいる時も、どんな時も共にいます。「恐ろしくなって、地面に顔を伏せていると、その人たちはこう言った。「あなたがたは、なぜ生きている方を死人の中で捜すのですか。」(ルカ24：5) 神様はあなたを愛しているので、疑っていたとしても現れてくれますが、イエス様は命がけで十字架にかかってくれたのに私たちがいつまでも信じないはいけません。恩をあだで返す生き方はいけません。教会に来ていようとしまいと神様はあなたの隣にいます。そして1度信じたあなたには、永遠に消えることなくいます。あなたを愛し、あなたが悩んでいるならとりなしてくださっているのがイエス様です。その生きた人を死人のうちから見ないで下さい。働きを閉じ込めないでください。大事なことはあなたが神様の事をみることです。③神の栄光(奇跡を見よ)。私たちにとって奇跡は神様にとっては奇跡でも何でもなく当たり前であり必然です。私たちが字を書く、ここにいる・・・こういったことも全て奇跡と信じられるなら、あなたにとってそれは神のみざわですが、すごいことだけが奇跡で普段のことは当たり前だと言っているのであれば、神様が働く余地はありません。だから「主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな。」(詩103：3)なのです。すべて奇跡の中にいる私たちは神様のなさる奇跡を信じなくてははいけません。そうすればあなたの不安はなくなるはず。キリストを基としていれば、復活も、あなたの目の前出来事も、墓石もすべて奇跡ではなく、当たり前のことなのです。神様を信じ、働けばどんなこともできると信じる力はあなたに対する神の栄光であり、奇跡でも何でもありません。神様の姿を確認してください。神様は願いをかなえるだけでなく共にいる神様です。私たちがどこにいようと何をしようとしていようと離れることはありません。私たちは桜のように道(役目)をもって歩みましょう。そのために石で悩んではいけません。あなたが神の働きをしようとした時、どれだけ大きな石であっても神にとって不可能なことはありません。私たちの価値観で神を決め付けるのをやめましょう。でなければ復活の主があなたの目の前に表れてもそれを受け入れられません。聖書ではいつも想像を超える出来事が神様によってなされていて、今それが私たちにも起ころうとしています。一人の人がその友のために命を捨てるほど大きな愛はありません。今日、もう一度あなたの心を神様に向けてください。イエス様は生きています。イエス様を死人から捜すことをやめ、キリストを基にし、神様と共に歩んでいきましょう。